

1 アイオーティカーボン株式会社

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日	
				第1回 (4月～ 9月)	第2回 (10月～ 3月)	A	B	C		
大気汚染	二酸化硫黄 (K値)	高温炭化炉 /低温炭化装置	1.87	2.34	0.036	0.082	1.87未満	1.87以上 2.34未満	2.34以上	第1回 6/20
	二酸化窒素 (ppm)	高温炭化炉 /低温炭化装置	200	250	190	180	200未満	200以上 250未満	250以上	
	ばいじん (g/Nm ³)	高温炭化炉 /低温炭化装置	0.12	0.15	不検出	不検出	0.12未満	0.12以上 0.15未満	0.15以上	
	塩化水素 (mg/Nm ³)	高温炭化炉 /低温炭化装置	560	700	3.1	16.3	560未満	560以上 700未満	700以上	第2回 12/18
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/Nm ³)	高温炭化炉 /低温炭化装置	4.0	5.0	0.0079	—	4.0未満	4.0以上5.0 未満	5.0以上	
	一酸化炭素 (ppm)	高温炭化炉 /低温炭化装置	80	100	3.2	1.8	80未満	80以上100 未満	100以上	
水質汚濁	下水	pH	5.8～8.6	5を超え9未満	7.6	7.7	5.8～8.6	5を超え5.8 未満または 8.6を超え9 未満	5以下また は9以上	第1回 6/21
		BOD (mg/l)	480	600	3.5	8.5	480未満	480以上 600未満	600以上	
		SS (mg/l)	480	600	5	7	480未満	480以上 600未満	600以上	
	雨水	SS (mg/l)	120	—	3	25	120未満	120以上	—	第2回 12/4
		油分	油膜が認め られないこと	—	不検出	不検出	油膜が認め られない	油膜が認め られる	—	
騒音	昼間(dB)	70	工業専用地域につ き規制基準なし	50～60	51～57	70未満	70以上	—	第1回 6/26～27	
	朝夕(dB)	65	工業専用地域につ き規制基準なし	49～60	50～58	65未満	65以上	—		
	夜間(dB)	63	工業専用地域につ き規制基準なし	50～60	48～57	63未満	63以上	—		
振動	昼間(dB)	65	工業専用地域につ き規制基準なし	32～49	38～49	65未満	65以上	—	第2回 12/19	
	夜間(dB)	60	工業専用地域につ き規制基準なし	30未満 ～34	30未満 ～39	60未満	60以上	—		
悪臭	臭気	周辺の人の 多数が 不快を感じないと 認められる程度	周辺の人の多数が 不快を感じないと 認められる程度	臭気指数 10未満 (風上) 10未満 (風下) (不快を感じない程度)	臭気指数 10未満 (風上) 10未満 (風下) (不快を感じない程度)	臭気指数 10以下	—	臭気指数 10を超える	第1回 6/21※1 第2回 12/19※2	

※1 悪臭測定時の気象(第1回)天候:曇、気温:25.0℃、風向:北北西

※2 悪臭測定時の気象(第2回)天候:曇、気温:3.0℃、風向:南西

※ 騒音・振動測定時の主風向:第1回/北、第2回/(無風)

(2) 評価

すべてについて、A評価となっており、『評価A:問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在のアイオーティカーボン(株)による周辺環境への影響は軽微であると評価できる。

2 富山グリーンフードリサイクル株式会社

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日		
				第1回 (4月～ 9月)	第2回 (10月～ 3月)	A	B	C			
大気汚染	二酸化硫黄 (K値)	マイクロガスタービン	1.87	規制基準値なし	1.3 (ppm) K値0.25	1.5 (ppm) K値0.25	1.87 未満	1.87 以上 2.34 未満	2.34 以上	第1回 8/3	
		温水ボイラ	1.87		不使用	不使用	—	—	—		
	二酸化窒素 (ppm)	マイクロガスタービン	70	250	1.7	4.1	200 未満	200 以上 250 未満	250 以上	第2回 2/8	
		温水ボイラ	150		不使用	不使用	—	—	—		
	硫化水素 (ppm)	脱硫塔	16	20	0.1 未満	0.1 未満	16 未満	16 以上 20 未満	20 以上	第1回 8/5	
アンモニア (ppm)	脱硫塔	160	200	0.1 未満	0.1 未満	160 未満	160 以上 200 未満	200 以上	第2回 1/23		
水質汚濁	下水	pH	排水処理設備	5.8～8.6	5 を超え 9 未満	8.6	7.0	5.8～8.6	5 を超え 5.8 未満または 8.6 を超え 9 未満	5 以下または 9 以上	第1回 7/13
		BOD (mg/l)	排水処理設備	480	600	14	80	480 未満	480 以上 600 未満	600 以上	第2回 1/23
		SS (mg/l)	排水処理設備	480	600	1 未満	1 未満	480 未満	480 以上 600 未満	600 以上	
	雨水	SS (mg/l)		120	—	2	2	120 未満	120 以上	—	第1回 7/13
		油分			油膜が認められないこと	—	0.5 未満	0.5 未満	油膜が認められない	油膜が認められる	—
騒音	昼間(dB)	施設全体	70	工業専用地域につき規制基準なし	57	55	70 未満	70 以上	—	第1回 7/15	
	朝夕(dB)	バイオガス製造設備	65	工業専用地域につき規制基準なし	53～55	52～53	65 未満	65 以上	—		
	夜間(dB)	バイオガス製造設備	63	工業専用地域につき規制基準なし	53	53	63 未満	63 以上	—		
振動	昼間(dB)	施設全体	65	工業専用地域につき規制基準なし	36	34	65 未満	65 以上	—	第2回 1/16 (振動) 2/3	
	夜間(dB)	バイオガス製造設備	60	工業専用地域につき規制基準なし	30 未満	30	60 未満	60 以上	—		
悪臭	アンモニア (ppm)	生ゴミ処理棟	1	2	0.1 未満	0.1 未満	2 未満	1 以上 2 未満	2 以上	第1回 7/8※1 第2回 1/23※2	
	臭気指数	排水処理槽 汚泥脱水設備 発酵棟 脱臭設備		周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	臭気指数 10 未満	臭気指数 10 未満	臭気指数 10 以下	—	臭気指数 10 を超える		

※1 悪臭測定時の気象(第1回)天候:曇、気温:26.6℃、風向:北北東

※2 悪臭測定時の気象(第2回)天候:曇、気温:7.2℃、風向:南西

※ 騒音・振動測定時の主風向:第1回/南南東、第2回/南南東

(2) 評価

すべてについて、A評価となっており、『評価A:問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在の富山グリーンフードリサイクル(株)による周辺環境への影響は軽微であると評価できる。

3 日本オートリサイクル株式会社

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日	
				第1回 (4月～ 9月)	第2回 (10月～ 3月)	A	B	C		
大気汚染	二酸化硫黄 (K 値)	アルミニウム溶融炉	1.87	2.34	休止中	休止中	1.87 未満	1.87 以上 2.34 未満	2.34 以上	-
	二酸化窒素 (ppm)	アルミニウム溶融炉	144	180	休止中	休止中	144 未満	144 以上 180 未満	180 以上	
	ばいじん (g/Nm ³)	アルミニウム溶融炉	0.08	0.10	休止中	休止中	0.08 未満	0.08 以上 0.10 未満	0.10 以上	
	塩化水素 (mg/Nm ³)	アルミニウム溶融炉	560	700	休止中	休止中	560 未満	560 以上 700 未満	700 以上	
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/ Nm ³)	アルミニウム溶融炉	0.8	1.0	休止中	休止中	0.8 未満	0.8 以上 1.0 未満	1.0 以上	
	二酸化硫黄 (K 値)	金属溶融炉	1.87	2.34	休止中	休止中	1.87 未満	1.87 以上 2.34 未満	2.34 以上	
	二酸化窒素 (ppm)	金属溶融炉	144	180	休止中	休止中	144 未満	144 以上 180 未満	180 以上	
	ばいじん (g/Nm ³)	金属溶融炉	0.08	0.10	休止中	休止中	0.08 未満	0.08 以上 0.10 未満	0.10 以上	
	塩化水素 (mg/Nm ³)	金属溶融炉	560	700	休止中	休止中	560 未満	560 以上 700 未満	700 以上	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/ Nm ³)	金属溶融炉	0.8	1.0	休止中	休止中	0.8 未満	0.8 以上 1.0 未満	1.0 以上		
水質汚濁	下水	pH	5.8～8.6	5 を超え 9 未満	7.8	7.4	5.8～8.6	5 を超え 5.8 未満 または 8.6 を超え 9 未満	5 以下または 9 以上	第1回 7/13
		BOD (mg/l)	480	600	38	5	480 未満	480 以上 600 未満	600 以上	第2回 1/23
	雨水	SS (mg/l)	480	600	21	14	480 未満	480 以上 600 未満	600 以上	第1回 7/13
		油分	油膜が認められないこと	-	0.5 未満	0.5 未満	油膜が認められない	油膜が認められる	-	第2回 1/23
騒音	昼間(dB)	70	工業専用地域につき規制基準なし	50	54	70 未満	70 以上	-	第1回 7/13	
	朝夕(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	45～46	49～50	65 未満	65 以上	-		
	夜間(dB)	63	工業専用地域につき規制基準なし	44	49	63 未満	63 以上	-		
振動	昼間(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	33	35	65 未満	65 以上	-	第2回 1/25	
	夜間(dB)	60	工業専用地域につき規制基準なし	30	34	60 未満	60 以上	-		
悪臭	臭気	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	-	臭気指数 10 未満	臭気指数 10 以下	-	臭気指数 10 を超える	第1回 - 第2回 1/23※1	

※1 悪臭測定時の気象（第2回）天候：晴、気温：7.2℃、風向：北北東

※ 騒音・振動測定時の主風向：第1回/南南東、第2回/南南西

(2) 評価

大気については、溶融炉が休止中のため未測定となっているので、周辺住民への影響はない。今後、溶融炉が稼働した段階で注視していくことが重要である。

水質、騒音・振動、悪臭についてはA評価となっており、『評価A：問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在の日本オートリサイクル(株)による周辺環境への影響は軽微であると評価できる。

4 株式会社プリテック

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日	
				第1回 (4月～9月)	第2回 (10月～3月)	A	B	C		
大気汚染	二酸化窒素 (ppm) プラスチック油化施設	180	小規模につき対象外	—	休止	180未満	180以上	—	第1回 — 第2回 —	
水質汚濁	下水	pH	5.8～8.6	5を超え9未満	8.3	7.1	5.8～8.6	5を超え5.8未満または8.6を超え9未満	5以下または9以上	第1回 6/21
		BOD (mg/l)	480	600	160	160	480未満	480以上600未満	600以上	第2回 12/4
		SS (mg/l)	480	600	62	59	480未満	480以上600未満	600以上	
	雨水	SS (mg/l)	120	—	不検出	不検出	120未満	120以上	—	第1回 6/22
		油分	油膜が認められないこと	—	不検出	不検出	油膜が認められない	油膜が認められる	—	第2回 12/4
騒音	昼間(dB)	70	工業専用地域につき規制基準なし	49～58	52～60	70未満	70以上	—	第1回 6/26	
	朝夕(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	41～61	52～59	65未満	65以上	—		
	夜間(dB)	63	工業専用地域につき規制基準なし	48～59	51～59	63未満	63以上	—		
振動	昼間(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	38～48	41～47	65未満	65以上	—	第2回 12/3～5	
	夜間(dB)	60	工業専用地域につき規制基準なし	33～41	35～42	60未満	60以上	—		
悪臭	臭気	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	臭気指数10.0未満(風上) 臭気指数10.0未満(風下)	臭気指数10.0未満(風上) 臭気指数10.0未満(風下)	臭気指数10以下	—	臭気指数10を超える	第1回 6/26※1 第2回 12/4※2	

※1 悪臭測定時の気象(第1回)天候:晴、気温:22.5℃、風向:北北東

※2 悪臭測定時の気象(第2回)天候:曇、気温:9.2℃、風向:南西

※ 騒音・振動測定時の主風向:第1回/北、第2回/(無風)

(2) 評価

大気については、プラスチック油化設備が休止中のため未測定となっているので、周辺住民への影響はない。

水質、騒音・振動、悪臭についてはA評価となっており、『評価A:問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在の(株)プリテックによる周辺環境への影響は軽微であると評価できる。

5 株式会社エコ・マインド

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日	
				第1回 (4月～ 9月)	第2回 (10月～ 3月)	A	B	C		
水質汚濁	雨水	SS (mg/l)	120	—	不検出～4	不検出～3	120未満	120以上	—	第1回 6/21
		油分 (mg/l)	油膜が認められないこと	—	不検出	不検出	油膜が認められない	油膜が認められる	—	第2回 12/4
騒音	施設全体	昼間(dB)	70	工業専用地域につき規制基準なし	43～56	50～56	70未満	70以上	—	第1回 6/26
		朝夕(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	45～52	50～55	65未満	65以上	—	
		夜間(dB)	63	工業専用地域につき規制基準なし	44～52	49～54	63未満	63以上	—	第2回 12/3～5
振動	施設全体	昼間(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	36～42	38～41	65未満	65以上	—	第1回 6/21※1 第2回 12/4※2
		夜間(dB)	60	工業専用地域につき規制基準なし	43～39	35～39	60未満	60以上	—	
悪臭	臭気	繊維・プラスチック・紙等廃棄物	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	臭気指数 10未満 (風上) 臭気指数 10未満 (風下)	臭気指数 10未満 (風上) 臭気指数 10未満 (風下)	臭気指数 10以下	—	臭気指数 10を超える	第1回 6/21※1 第2回 12/4※2

※1 悪臭測定時の気象(第1回) 天候:曇、気温:24.3℃、風向:南西

※2 悪臭測定時の気象(第2回) 天候:曇、気温:8.7℃、風向:南西

※ 騒音・振動測定時の主風向:第1回/北北東、第2回/(無風)

(2) 評価

すべてについて、A評価となっており、『評価A:問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在の株エコ・マインドによる周辺環境への影響は軽微であると評価できる。

6 富山BDF株式会社

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日	
				第1回 (4月～ 9月)	第2回 (10月～ 3月)	A	B	C		
水質汚濁	雨水	SS (mg/l)	120	—	1	不検出	120未満	120以上	—	第1回 6/21
		油分 (mg/l)	油膜が認められないこと	—	不検出	不検出	油膜が認められない	油膜が認められる	—	第2回 12/4
騒音	施設全体	昼間(dB)	70	工業専用地域につき規制基準なし	53～59	56～60	70未満	70以上	—	第1回 6/26～27
		朝夕(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	51～60	52～58	65未満	65以上	—	
		夜間(dB)	63	工業専用地域につき規制基準なし	52～59	52～57	63未満	63以上	—	第2回 12/19
振動	施設全体	昼間(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	39～48	39～43	65未満	65以上	—	
		夜間(dB)	60	工業専用地域につき規制基準なし	30未満～34	31～33	60未満	60以上	—	
悪臭	臭気	前処理棟	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	周辺の人の多数が不快を感じないと認められる程度	臭気指数 10未満	臭気指数 10未満	臭気指数 10以下	—	臭気指数 10を超える	第1回 6/21※1 第2回 12/4※2

※1 悪臭測定時の気象（第1回）天候：曇、気温：23.8℃、風向：西

※2 悪臭測定時の気象（第2回）天候：曇、気温：9.4℃、風向：南西

※ 騒音・振動測定時の主風向：第1回／北北東、第2回／（無風）

(2) 評価

すべてについて、A評価となっており、『評価A：問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在の富山BDF(株)による周辺環境への影響は軽微であると評価できる。

7 株式会社アイザック

(1) 排出目標値と調査結果の比較

表(1) 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果						モニタリング結果の評価		
				4/13	6/19	9/3	10/26	12/14	3/4	A	B	C
硫黄酸化物 (ppm)	焼却施設	80	—	16	0.6 未満	0.6 未満	1.1	1.9	13	80 未満	80 以上	—
(K 値)		1.87	2.34	0.132	0.00494 未満	0.00546 未満	0.0116	0.0208	0.141	1.87 未満	1.87 以上 2.34 未満	2.34 以上
窒素酸化物 (ppm)		144	250	49	95	44	50	44	52	144 未満	144 以上 180 未満	180 以上
塩化水素 (mg/Nm ³)		560	700	2.5 未満	2.9	2.5 未満	14	8.2	50	560 未満	560 以上 700 未満	700 以上
ばいじん (mg/Nm ³)		120	40	1 未満	0.001	0.001 未満	1 未満	1	3	40 未満	40 以上 120 未満	120 以上
一酸化炭素 (ppm)		80	100	17.5	6.9	3.04	11.8	10.04	5.56	80 未満	80 以上 100 未満	100 以上
水銀及びその化合物 (mg/Nm ³)		0.02	—	0.0018 未満	—	0.0019 未満	—	0.0017 未満	—	0.02 未満	0.02 以上	
鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)		8	10	0.0020	—	0.0019	—	0.0004 未満	—	8 未満	8 以上 10 未満	10 以上
カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)		0.8	1	0.0002 未満	—	0.0002 未満	—	0.0004 未満	—	0.8 未満	0.8 以上 1 未満	1 以上
酸素、酸化水素及び酸化窒素 (mg/Nm ³)		5.0	—	0.34 未満	—	0.37 未満	—	0.34 未満	—	5.0 未満	5.0 以上	
銅及びその化合物 (mg/Nm ³)		5.0	—	0.0008	—	0.0088	—	0.0009	—	5.0 未満	5.0 以上	
亜鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)		5.0	—	0.0059	—	0.027	—	0.0093	—	5.0 未満	5.0 以上	
砒素及びその化合物 (mg/Nm ³)		0.50	—	0.0002 未満	—	0.0002 未満	—	0.0004 未満	—	0.50 未満	0.50 以上	
セレン及びその化合物 (mg/Nm ³)		0.50	—	0.0002 未満	—	0.0002 未満	—	0.0004 未満	—	0.50 未満	0.50 以上	
クロム及びその化合物 (mg/Nm ³)		0.25	—	0.0011	—	0.0011	—	0.0004 未満	—	0.25 未満	0.25 以上	
塩素 (mg/Nm ³)		15	—	4.0	—	6.6	—	10	—	15 未満	15 以上	
シアン化水素 (mg/Nm ³)		0.25	—	0.019 未満	—	0.020 未満	—	0.018 未満	—	0.25 未満	0.25 以上	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/Nm ³)		0.08	0.1	—	0.0000008 7	—	0.000068	0.00034	—	0.08 未満	0.08 以上 1 未満	1 以上
焼却灰ダイオキシン類 (ng-TEQ/Nm ³)		2.4	3	—	—	—	—	0.045	—	2.4 未満	2.4 以上 3 未満	3 以上
ばいじんダイオキシン類 (ng-TEQ/Nm ³)		2.4	3	—	—	—	—	0.46	—	2.4 未満	2.4 以上 3 未満	3 以上

表(2) 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果		モニタリング結果の評価			測定日	
				第1回 (4月～ 9月)	第2回 (10月～ 3月)	A	B	C		
水質汚濁	下水	pH	5.8～8.6	5を超え9未満	7.8	7.6	5.8～8.6	5を超え5.8未満または8.6を超え9未満	5以下または9以上	第1回 6/11
		BOD (mg/l)	480	600	2.1	1.5	480未満	480以上 600未満	600以上	第2回 12/10
		SS (mg/l)	480	600	0.66	14	480未満	480以上 600未満	600以上	
	雨水	SS (mg/l)	120	—	2.9	9.5	120未満	120以上	—	第1回 6/11
油分 (mg/l)		施設全体	油膜が認められないこと	—	油膜が認められない	油膜が認められない	油膜が認められない	油膜が認められる	—	第2回 12/10
騒音	施設全体	昼間(dB)	70	工業専用地域につき規制基準なし	57～63	53～61	70未満	70以上	—	第1回 4/20
		朝夕(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	52～56	52～59	65未満	65以上	—	
		夜間(dB)	63	工業専用地域につき規制基準なし	51～56	51～58	63未満	63以上	—	
振動	施設全体	昼間(dB)	65	工業専用地域につき規制基準なし	36～40	40～41	65未満	65以上	—	第2回 10/16
		夜間(dB)	60	工業専用地域につき規制基準なし	31～36	35	60未満	60以上	—	
悪臭	施設全体	アンモニア (ppm)	1.6	2	風上:0.1 風下:不検出	不検出	1.6未満	1.6以上 2未満	2以上	第1回 4/18※1
	施設全体	メチルメルカプタン (ppm)	0.0032	0.004	不検出	不検出	0.0032未満	0.0032以上 0.004未満	0.004以上	
	施設全体	硫化水素 (ppm)	0.048	0.06	不検出	不検出	0.048未満	0.048以上 0.06未満	0.06以上	
	施設全体	硫化メチル (ppm)	0.04	0.05	不検出	不検出	0.004未満	0.004以上 0.005未満	0.005以上	
	施設全体	二硫化メチル (ppm)	0.024	0.03	不検出	不検出	0.024未満	0.024以上 0.03未満	0.03以上	
	施設全体	トリメチルアミン (ppm)	0.016	0.02	不検出	不検出	0.016未満	0.016以上 0.02未満	0.02以上	
	施設全体	アセトアルデヒド (ppm)	0.08	0.1	不検出	不検出	0.08未満	0.08以上 0.1未満	0.1以上	
	施設全体	プロピオンアルデヒド (ppm)	0.08	0.1	不検出	不検出	0.08未満	0.08以上 0.1未満	0.1以上	
	施設全体	ノルマルブチルアルデヒド (ppm)	0.024	0.03	不検出	不検出	0.024未満	0.024以上 0.03未満	0.03以上	
	施設全体	イソブチルアルデヒド (ppm)	0.056	0.07	不検出	不検出	0.056未満	0.056以上 0.07未満	0.07以上	
	施設全体	ノルマルペンチルアルデヒド (ppm)	0.016	0.02	不検出	不検出	0.016未満	0.016以上 0.02未満	0.02以上	
	施設全体	イソペンチルアルデヒド (ppm)	0.0048	0.006	不検出	不検出	0.0048未満	0.0048以上 0.006未満	0.006以上	
	施設全体	イソブタノール (ppm)	3.2	4	不検出	不検出	3.2未満	3.2以上 4未満	4以上	
	施設全体	酢酸エチル (ppm)	5.6	7	風上:0.05 風下:不検出	不検出	5.6未満	5.6以上 7未満	7以上	
	施設全体	メチルイソブチルケトン (ppm)	2.4	3	風上:0.13 風下:不検出	不検出	2.4未満	2.4以上 3未満	3以上	
	施設全体	トルエン (ppm)	24	30	不検出	不検出	24未満	24以上 30未満	30以上	
	施設全体	スチレン (ppm)	0.64	0.8	不検出	不検出	0.64未満	0.64以上 0.8未満	0.8以上	
	施設全体	キシレン (ppm)	1.6	2	不検出	不検出	1.6未満	1.6以上 2未満	2以上	
	施設全体	プロピオン酸 (ppm)	0.056	0.07	不検出	不検出	0.056未満	0.056以上 0.07未満	0.07以上	
	施設全体	ノルマル酪酸 (ppm)	0.0016	0.002	不検出	不検出	0.0016未満	0.0016以上 0.002未満	0.002以上	
施設全体	ノルマル吉草酸 (ppm)	0.0016	0.002	不検出	不検出	0.0016未満	0.0016以上 0.002未満	0.002以上		
施設全体	イソ吉草酸 (ppm)	0.0032	0.004	不検出	不検出	0.0032未満	0.0032以上 0.004未満	0.004以上		

※1 悪臭測定時の気象(第1回)天候:晴、気温:13.0℃、風向:北

※2 悪臭測定時の気象(第2回)天候:晴、気温:19.0℃、風向:東南東

※ 騒音・振動測定時の主風向:第1回/北北東、第2回/東

表(3) 排出目標値との比較結果

項目	対象施設	排出目標値	規制基準値	測定結果						モニタリング結果の評価			
				4/18	6/12	9/3	10/12	12/3	2/4	A	B	C	
悪臭	臭気指数	施設全体	臭気指数 10未満	—	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	臭気指数 10未満	臭気指数 10	臭気指数 10を超える
	臭気	施設全体	周辺の人 の多数が 不快を感じ ないと認め られる程度	周辺の人 の多数が 不快を感じ ないと認め られる程度	不快を感じない程度 ※測定日：週1回						不快を感じ ない	不快を感じ る	

(2) 評価

すべてについて、A評価となっており、『評価A：問題なし。操業をそのまま継続。』に該当することから、現在の(株)アイザックエネルギーセンターによる周辺環境への影響は軽微であると評価できる。